

神戈陵を渡る風3

令和5年度 川辺高校 校長通信 第135号(通算)

令和6年1月19日(金)発行

年が明けて1月となり、来週からは下旬となります。今年の1月も、あっという間に過ぎ去ろうとしているように感じています。3年生が毎日登校するのもあと10日ほどとなり、受験を控えた人以外は2月から週一回の登校日となります。

先週の12日は桜島の大正大噴火からちょうど110年目でした。鹿児島県のシンボルとしての桜島について、今回の通信では校長が撮影した写真を用いて紹介します。自然は、「油断した頃に牙をむく」と言います。**備えあれば憂いなし**



上空から見た桜島

桜島特集



桜島は、ウィキペディアによると、『日本の九州南部、鹿児島県の鹿児島湾(錦江湾)にある東西約12km、南北約10km、周囲約55km、面積約77km²の火山。鹿児島県指定名勝。かつては、名前の通り島だったが、1914年に発生した大正

大噴火により、対岸の大隅半島と陸続きになった。』とあります。また、鹿児島県の観光サイトでは、『鹿児島のシンボルと言われる桜島は、北岳と南岳の2つが合わさる複合活火山で、今も噴煙を上げ灰を降らせている世界的にめずらしい火山です。高さ1,117mで大正3年の噴火では大隅半島と地続きになりました。昭和29年に県の名勝に指定されています。』と紹介されています。



【坂之上(鹿児島市)から見た桜島】



噴煙が夕陽に赤く照らされています。

【垂水(牛根方面)から見た桜島】



昭和火口の噴気がなんとなく不気味です。

【黒神の埋没鳥居と緊急避難壕】





黎明館には、桜島の大正大噴火を記録した掛け軸(日本画)が展示されています。この冬には、鹿児島市立美術館に、大正大噴火前後の桜島を描いた作品がたくさん展示してありました。鹿児島出身の海老原喜之助画伯は帰鹿中で桜島や鹿児島市の当時の状況を克明に絵に描いています。それらの作品を鑑賞することが出来ました。

【吉野の原五社神社と黒神の腹五社神社】



吉野と黒神に、原五社神社と腹五社神社があります。吉野の神社は、江戸時代の桜島大噴火で避難移住した人々が建立した神社だそうです。大正大噴火では、元の神社の鳥居がほとんど火山灰に埋もれてしまっています。



磯海水浴場近くから見た桜島

大学入学共通テスト

令和6年1月13日(土)14日(日)
3年生の24名が12日に出発式を行い、鹿児島国際大学で受験しました。今年は二日間とも暖かい日でよかったです。



まるごと自然の家in南九州

令和6年1月14日(日)
サイエンス部がひまわり館で小中学生の親子連れに対してサイエンスコーナー(理科実験ブース)を担当しました。

